

追悼の辞

専修大学法学部長 白藤 博行

小野寺忍先生。あなたの突然の訃報に接した時の、悲しみ、寂しさ、悔しさは、今も忘れることができません。あなたのご家族のお悲しみもさることながら、専修大学の教職員や、あなたを慕う学生・院生・卒業生の喪失感も計り知れないものでした。

あなたは、非常にたくさんの研究をされてきましたが、最近の弁論主義の研究はまだ「覚書」のままであったり、民事訴訟に関する歴史的資料の収集や研究も、まだ継続中であつたり、きっと心残りだったでしょう。指導途中の学部ゼミ生や大学院生のことも、気がかりだったでしょう。

少し振り返るだけでも、あなたが研究や教育でやり残されたことを慮ると、さぞや無念だったろうと思います。あなたは、研究にも、教育にも、最期の最後まで、挑み続けました。授業も入院直前まで行われ、ゼミ生との懇親会まで付き合われたとお聞きました。その熱意に敬服いたします。

あなたは、学問において、教育において、そして学内行政においても、たいへん頑固一徹でした。その頑固一徹さは、あなたの強さの象徴でした。それは、強い者に対してはより強く、弱い者に対してはより優しくという強さでした。その強いあなたが、お嬢様のご不幸の際には、ほんとうに憔悴なさっているご様子でした。同僚た

ちは、声をかける勇気もなく、ただただ心配しておりました。今は、そのお嬢様と再会できているだろうことを希望としなければなりません。

仕事上、もっともお世話になったのが、中国南開大学との交流の件でした。南開大学との交流は、そもそもあなたの仲介なしには始まりませんでした。もう3年以上前のことです。2016年11月初旬に本学で開催した国際シンポジウムについても、随分、お力添えをいただきました。不躰にも、南開大学へのご連絡等、いろいろお願い事ばかりをしておりました。今思えば、すでにお身体の状態は、きつい状態だったのだらうと拝察し、申し訳なく思っております。

来学された南開大学の先生方も、あなたに会うことを楽しみにしておられました。お見舞いにいきたいとも、おっしゃっておられたほどです。本年度は、南開大学において、国際交流シンポジウムを開催する予定です。そのときには、あなたも一緒にと強く望んでおりましたが、果たせなくなってしまいました。無念ですが、必ず成功させたいと臍を固めております。

あなたは、「ビールがわたしの主食です」と豪語されてきました。その豪快な飲みっぷりを今でも思い出します。もはやご一緒できませんが、天国でも豪快にビールのジョッキを傾けておられることでしょう。

最後に、ご遺族の皆様、専修大学教職員、そして学生・院生・卒業生とともに、あなたの遺志を継いで、果敢に人生に挑み続けることをお誓いして、追悼の辞とさせていただきますと思います。

さようなら。

2017年5月